彙　報

第一二回総会および研究集会

木簡学会第一二回総会と研究集会は、一九九〇年一二月一日、二日の両日、奈良国立文化財研究所平城宮跡資料館講堂において、会員約一五〇名が出席して開催された。会場には、平城京跡東二坊坊間路西側溝出土木簡、長屋王邸宅跡出土木簡、藤原宮跡・山田道跡・山田寺跡出土木簡（以上奈良国立文化財研究所）、長岡京跡出土木簡（京都府埋蔵文化財調査研究センター）、上荒屋遺跡出土木簡（金沢市教育委員会）、斗西遺跡出土木簡（能登川町教育委員会）などが展示された。

◇一二月一日（土）（午後一時～五時）

第一二回総会（議長　坪井清足氏）

平野邦雄会長の開会の挨拶の後、議長に大阪文化財センターの坪井清足氏を選出して議事に入った。

会務報告（鬼頭清明委員）

今年度の新入会員は二一名、一方退会者は四名で、会員数は昨年より一七名増の二七四名、うち海外の会員が三名含まれる旨報告があった。会員数の問題については、会員が三〇〇名近くにまで増加したため、従前の運営方法では限界に近い状況になっているとの認識が示され、早急に検討を加え、明確な方針を打ちたてる必要があるという指摘がなされた。

編集報告（東野治之委員）

『木簡研究』第一二号編集担当の東野治之委員より、編集の経過及び頒価を前号と同じく三八〇〇円（送料四〇〇円）とした旨報告があった。

会計報告（綾村宏委員）

一九八九年度の収支報告の後、田中稔監事より、長山泰孝監事とともに収支内容を監査した結果、会計執行が適正に行なわれていることを確認したとの報告があった。

一〇周年記念出版について（鬼頭清明委員）

一〇周年記念出版図書の『日本古代木簡選』（岩波書店刊）の内容、編集の経過・編集経費などについて報告があった。

以上の案件について、討議が行なわれ、議案は承認された。

役員改選について（鬼頭清明委員）

次期（一九九一・九二年度）委員及び監事について、鬼頭清明委員より推挙があり、拍手により承認された。新委員及び監事は別表（二二五頁参照）のとおりである。

研究集会　（司会　狩野久氏）

上荒屋遺跡の発掘調査概要　　小西昌志氏

横江荘を中心とする
北陸の初期荘園遺跡について　出越茂和氏
上荒屋遺跡の木簡について　平川　南氏
二条大路木簡と古代の食料品貢進制度　樋口知志氏

小西・出越・平川氏の報告は、北陸の古代初期荘園の実態にせまる注目すべき木簡の出土した、上荒屋遺跡に関する報告で、小西氏の報告では考古学の面から遺構の概要と墨書土器について、出越氏の報告では発掘によって解明されつつある北陸の初期荘園遺跡の全体像について、平川氏の報告では出土木簡の内容について説明があった。その概要は本号にも掲載できたので参照されたい。

樋口氏の報告は、二条大路木簡の出土によって、飛躍的な増加をみた荷札木簡によって、古代の食料品貢進制度の再検討を行なったもので、その内容は本号に掲載することができた。

◇一二月二日（日）（午前九時三〇分～午後三時）
研究集会（司会　加藤優氏・八木充氏）
一九九〇年全国出土の木簡　館野和己氏
平城京東二坊坊間路西側溝出土の木簡　寺崎保広氏
鴻臚館跡の調査と木簡　折尾　学氏

館野氏の報告は、一九九〇年に全国で木簡が出土した四四の遺跡について、木簡出土遺構と木簡の概要を説明したもので、その多くは本号に掲載できた。

寺崎氏の報告は、長屋王邸及びその北の東院南方遺跡の東側を走る東二坊坊間路西側溝出土の木簡の概要を説明したものである。その内容については、既に前号に報告がある。

折尾氏の報告では、一九八七年度以来継続して調査が進められ、遺構の面でも、また木簡の出土の面でも大きな成果を得ている鴻臚館跡の発掘調査について、概要の説明があった。その内容は、本号に掲載することができた。

午後からは、二日間の報告について、活発な質疑討論が行なわれ、総括討議で締めくくられた。最後に、大庭脩副会長から閉会の挨拶があり、参加者への謝辞が述べられた。

委員会報告

◇一九九〇年一二月一日（土）　於奈良国立文化財研究所

総会に先だって、会務報告、『木簡研究』第一二号の編集報告、一九九〇年度の会計中間報告、総会・研究集会の運営などについて検討を行なった。一〇周年記念出版『日本古代木簡選』の編集経過などについても報告があった。

◇一九九〇年一二月一日（土）　於奈良国立文化財研究所

総会後、新委員・監事によって、一九九一・九二年度役員の互選を行ない、狩野久氏を会長に、早川庄八氏と町田章氏を副会長に選出した。

◇一九九一年五月二〇日（月）　於奈良国立文化財研究所

新入会員の承認、一九九〇年度の会計報告、『木簡研究』第一三号の編集計画、第一三回大会の日程・内容などについて検討した。

一九八八年以来幹事を委嘱してきた、村上隆氏の幹事退任が認められた。また、同日、一九九〇年度の会計監査も行なわれた。

◇一九九一年一一月一日（金）　於奈良国立文化財研究所

新入会員の承認、一九九一年度の会計中間報告、『木簡研究』第一三号の編集状況、第一三回総会・研究集会の日程と内容について検討を行なった。

会計中間報告では、一九九一年七月三〇日に逝去された当学会前監事田中稔氏のご遺族より、木簡学会宛に五〇万円の寄付があった旨報告があった。

また、会員問題について、一九九一年九月二一日（土）、会長・副会長を含め委員と幹事計一二人で「木簡学会会員問題についての意見交換会」を開いたとの報告があり、会員増加問題へのとりくみ、今後の学会のあり方などについて検討を行なった。

木簡学会役員（一九九一・九二年度）

会長　狩野　久

副会長　早川　庄八　町田　章

委員　綾村　宏　石上　英一　鎌田　元一
鬼頭　清明　栄原永遠男　佐藤　宗諄
館野　和己　東野　治之　永田　英正
原　秀三郎　平川　南　松下　正司

監事　山中　敏史　吉田　孝　和田　萃
笹山　晴生　八木　充

幹事　鷺森　浩幸　清水　みき　鈴木　景二
寺崎　保広　土橋　誠　西山　良平
橋本　義則　本郷　真紹　森　公章
吉川　真司　渡辺　晃宏